

「デジタル遺品」が危ない 萩原栄幸

「シークレット」フォルダ

それにしても、よりによって「シークレット」という名前をつけるなんて。徹さんは、自分以外にパソコンを操作する人はいないからと油断したのでしょうか。

フォルダを開くと、そこには「写真」と「旅先データ」というファイルがありました。「自分でやってみます」と雅子さんがまず「写真」のファイルを開いてみると……見知らぬ女性が写っている写真が何枚も、中には徹さんがその女性の肩を抱いて一緒に写っているものもあったのです。後ろには、何やら見覚えのある風景が……。

「何なの、これは！ 私と一緒にいった場所じゃないの！」

FX

「先方の話では、夫は 1500 万円の損失を出したと。夫はもう亡くなっているから外貨の売買なんかできっこない、そもそも私にはそんなお金は用意できませんと言ったのですが……」

FX は元本保証の商品ではないため、相場が急激に変動した場合、大きな損を被る場合があります。その損失をなるべく抑えるために FX 会社は証拠金を大きく上回るような損失が出ないようにするため、マージンコールとロスカットという独自の仕組みを導入しています。マージンコールとは、担保として預け入れた証拠金の金額が、現在の含み損を差し引くと、大きくマイナスになる状況になった場合、証拠金の追加を行うように通知するものです。

また、ロスカットとは、含み損が大きくなりすぎた場合に自動的に行われる強制決済のことをいいます。例えばある取引会社ではマージンコールを証拠金維持率 50%、ロスカットを証拠金維持率 30%で設定しています。これは、証拠金として 100 万円を取引会社に入金した場合、FX 取引で思惑が外れて損をしたとき、50%の 50 万円以上損をするとマージンコールが発生し、証拠金の入金を催促されるということです。この時に入金する証拠金は「追証」、追加証拠金と呼ばれています。

更に証拠金率が 30%を下回ると、取引会社は規約に則り**強制的に反対売買を実施して取引を終了させます**。この場合、30 万円を割り込んだらロスカットとなり強制売買されます。

この仕組みで大きな損害にならないようにしているのですが、時々相場が急激に変動する時があります。そのときは**反対売買ができず、証拠金以上の損害が発生してしまいます**。

浩志さんのケース、が、まさにそれでした。浩志さんには、マージンコールがかかっていた。しかし、証拠金の追加も損切りもしなかった（亡くなっているのでできなかった）。そこでロスカット通用……のはずが、為替レートの急激な変動によって適用が間に合わず、結果的に大きな借金を抱えることとなってしまった、というわけです。

ブログ

綾子さんは、洋輔さんのブログを残していました。洋輔さんの死を知ってから、多くの人がコメントを寄せ、中には毎日のように書き込んでくれる人がいたからです。その様子を見てみると、まだ洋輔さんが生きていたような気がして、綾子さんは**ブログをそのままにしていた**のです。

ところが、洋輔さんが亡くなって半年がたった頃、洋輔さんの友人のひとりから綾子さんのもとに「彼のアカウントが乗っ取られているのではないかと連絡が入りました。なんでもその友人は、最近、身に覚えのない買い物で数十万円も銀行口座から引き落とされてしまった。いろいろ原因を探った結果、「ひょっとすると、洋輔さんのブログのアフィリエイト広告をクリックして、買い物をしたことが原因かもしれない」と言ったそうです。

・・・

ほとんどのアフィリエイト広告は正当なものです。生前の洋輔さんのブログに掲載されていたアフィリエイト広告も、もちろん正当なものでした。ただ、**洋輔さんの ID とアカウントを悪意ある誰かが乗っ取り、正当なものに見せかけた広告を設置して詐欺サイトに誘導し、それで友人が被害に遭ってしまった**のです。そのサイトで買い物をする際に入力した ID、メールアドレス、名前、住所、クレジットカード番号、セキュリティコードまですべてを盗まれ、銀行口座から多額のお金を引き落とされてしまいました。

守谷さんには、わけがわかりませんでした。あの画像が本当にさやかさん本人の姿だったとしても、なぜヌード写真なんて撮ったのか。

「私たちの周りでは、20歳の記念に自分のヌードを撮るのが流行っているんです。大人になった記念という意味もあるし、20歳ってきっと、体の線が人生でいちばんきれいな時だろうから、その姿を残しておこうと。さやかちゃんも私も最初はためらっていたんですけど、二人とも同い年だから、さやかちゃんのお誕生日会をしている時、気分が高まってしまって、つい……」

二人は、リカさんの持っていた高性能のデジタルカメラで、お互いのヌードを撮り合ったのだといいます。でも、それは他の誰に見せるつもりもなく、本当に自分自身の記念に撮っただけ。リカさんはさやかさんの写真を USB メモリに移し、手渡しました。

このさやかさん所有の USB メモリは、死期を察したさやかさんに頼まれ、亡くなる 10 日程前に目の前でリカさんが金づちで叩き壊したといいます。ただ捨てるのでは心配で、処理の方法はネットで調べたとのことでした。一方リカさんの方は、カメラに SD カードを入れたまま机の中にしまい込んでいました。

そしてさやかさんの葬儀を終えて 1 カ月ほど経ったある日、リカさんは同じサークルの男子学生に「デジカメのメモリが足りなくなった。ほんの一瞬、君のデジカメの SD カードを貸してほしい」と言われたそうです。

その学生が「レポートを書くための資料写真を撮りたい、レポートの提出期

限が明日に迫っている」と言うので、リカさんは「明日、返してくれるなら」という約束でSDカードを彼に渡しました。当然、そのSDカードには例の画像が入っているので、画像をPC経由でUSBメモリに退避させてから、**デジカメに内蔵された機能である「SDカード初期化」**を利用し、初期化をしてから渡したとのことでした。USBメモリには「永久保存」と書いてパスワードをかけた上、鍵のかかる小さな金庫に入れて机の引き出しの奥に入れ、こちらも鍵をかけたとのことでした。考える限り厳重に保管したようです。

「約束通り、彼は翌日にSDカードを返しにきてくれました。だから、彼を疑う気持ちなど少しも湧かなかったんです」

ところが、その件があってから1カ月が経過した頃、リカさんは知り合いの男子学生から、自分とさやかさんのヌード写真が「インターネット上に流れている」と知らされます。あわててその男子学生のパソコンをのぞくと、そこには確かに自分とさやかさんの姿が……。しかもその姿は、20歳の記念に撮ったあの写真であることが見てすぐにわかりました。

さやかさんは彼に、その写真はさやかさんと撮り合いっこしたものであること、そのデータは厳重に保管していることを話しました。すると、彼は表情をくもらせて、こう尋ねたといいます。

「ひょっとして、SDカードを誰かに貸したりしていない？」

彼によれば、たとえデジカメの「全消去」や「初期化」を実行したとしても、**SDカードの画像データは消えない**というのです（正確には、デジタル一眼レフの一部の機種等は「完全消去」をしてくれる機能があります）。

そこで私が提案したいのは、「A・絶対に重要なパスワード」「B・2番目に（そこそこ）重要なパスワード」「C・他人に盗まれても実害のない、あっても極めて軽微なパスワード」の3つに分けて管理することです。

クレジット払いは悪用された場合、個人の負担になる可能性はあまりない。

「秘密の質問」は単なるパスワード。

質問の内容と回答の内容が合わなくても良い。

答えが「単語、として登録されている以上、それが正解。

株や証券については遺産としてそのまま相続できますが、一度、相続人に名義変更をする手続きが必要です。銀行預金と同様、名義人が亡くなってから**3カ月以内に手続きをしなくてははいけない**ので、取引の痕跡がないかどうか、パソ

コン上をくまなくチェックしてください。

自動引き落としは、クレジットカードの有効期限が切れるまで支払いが続く。

また、「自動アップデート」機能にも注意が必要です。

たとえば、スマートフォンで撮ったプライベート写真を誰かに見られたら困ると思って削除しても、クラウドサービスを利用して、しかも自動的にアップロードする設定になっていたら、再びその写真がスマートフォン上で見られるようになってしまいます。

ご家族や大切な方を困らせない、悲しませないために、私が「ぜひ遺しておいていただきたい」と思うものを挙げてみましょう。

- ・デジタル機器を起動する際のパスワードやロックナンバー
- ・金銭がらみのデータ（インターネットバンキング、株や先物取引、クレジットカードの利用明細、インターネットオークションや通販サイトなどの利用状況など）
- ・思い出の写真
- ・住所録

これらを、遺された方が見つけやすく、理解しやすい方法で書き残すことが重要です。

かんたんファイル復活

<https://www.vector.co.jp/soft/winnt/util/se475491.html>